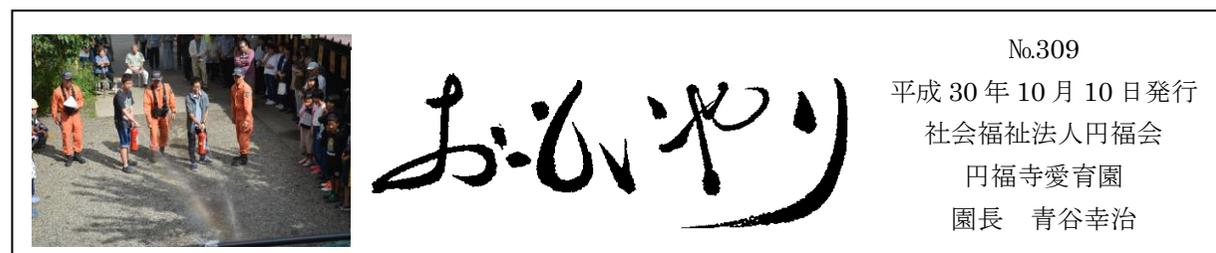


西横田区の合同防災訓練がありました。子どもたちは、消火器訓練に参加しました。



狭き門より入れ

理事長 藤本光世

倫理法人会の「万人幸福の栞」に「苦難は幸福の門（苦難福門）」の章があります。そこに、マタイ伝の「狭き門より入れ。滅びにいたる門は大きく、その路は広く、之より入る者多し。生命にいたる門は狭く、その路は細く、之を見出すもの少なし」の言葉が紹介されています。

千曲倫理法人会の 10 周年の式典で、社会福祉法人円福会の前理事でフレックス相談役の矢島久和さまが記念講演をされました。矢島久和さまは「矢島シャツ工場」と呼ばれていた会社を日本一のシャツメーカー「フレックス」に発展させた経営者で、私は尊敬しています。そして、困難なことがあるといつも相談に行き教を請いました。矢島さまが話されるどのお話も、実践に裏付けられていて、私が進む道の示唆を与えてくださいました。矢島さまは記念講演の中で、自分は「狭き門より入る」ことを心がけてきたと話されました。私はお聴きしたたくさんのお話を思い出しつつ、「狭き門より入る」ことの意味を具体的に考えました。

円福寺愛育園が今年創立 70 周年を迎えるにあたり、記念式典では歩んできた道を振り返り、これから歩むべき道を示さなければならないと思いました。愛育園の歴史は三十年誌「愛の花園」や五十年誌「大きな家族」に、藤本幸邦初代園長をはじめとする大勢の関係者の文として記されています。今回は、これまで読みとばしていた部分まで目を通しました。すると「大きな家族」に初代園長が児童養護施設の歩みを「三つの時代に分けて」と書いているのを知りました。これまでは気付いていませんでした。そこに、初代園長が児童福祉を三つの時代に分けて、円福寺愛育園の永遠たれと願って進むべき道を示されていました。私はその眼力に驚きました。

児童福祉施設は、戦後の戦災孤児や戦争による貧困家庭の孤児の救済から始まりました。（救済時代）そして、関係者のたゆまぬ努力により、福祉の本質は子どもたちは救済の対象ではなく、社会の責任で育てなければならないとして、児童憲章に示された「児童は人として尊ばれる。児童は社会の一員として重んぜられる。児童は良い環境の中で育てられる」時代に入りました。（福祉時代）

ところが、福祉時代には大きな課題が生じました。「大きな家族」に次のように書かれています。「児童は福祉の恩恵を受けることを当たり前と思うようになり、感謝とか、謙虚とかの心がなくなり、施設には自由がないとか、一般の児童のようではないとか、不平不満をいうようになり、しま

いには社会の風潮を持ち込み、施設内暴力や、非行や、逃亡が広まりました。そして、一般社会の子どもたちと変わらない処遇をしようということになると、毛を染めるのも、ピアスをつけるもの施設の児童だからいけないということは言えないのではないかという意見も出てきました。極論すると、施設はホテル化し園長はホテルのマネージャーとなり、指導員はホテルの番頭となり、保母はホテルのサーバントとなり、栄養士はホテルのシェフとなり、児童はホテルのお客さまとなってしまったのです。高校生が保母に「あんたたちは月給もらってるんでしょう。私たちの世話をするのは当然でしょう。」とスカートのアイロンがけまでさせるような始末となり、高校生の夜の外出は自由にしろという意見が出るにおよんでは日本の児童福祉施設は崩壊につながりかねない危惧を感じ…」

この文は平成十年に書かれたものです。実は、私がこの仕事に携わった平成二十年はまさにこのような状態でした。愛育園は混乱の中がありました。

福祉時代の課題を乗り越えるに、児童養護施設は教育施設でなければならない、永遠の課題であり、円福寺愛育園よ永遠であれという初代園長の願いでもありました。

しかしそれは簡単なことでは無い難事と書いています。その理由は

1. 施設職員の負担が過重になること
2. 職員そのものの能力が問われること

この十年仕事をしてきて、その通りだと思いました。「教育施設」の「教育」とは学校教育とは異なります。授業などで何かを「教える」(teach) ことではありません。授業で教材を理解させることを通して子どもの可能性を引き出す(educate)でもありません。部活で勝利を目指して練習することでもありません。施設の「教育」とは、生活を通して子どもに自立の力をつけてあげることです。家庭に恵まれず、温かい親の愛を受けられず、育った家庭環境で深刻な心の傷を負った児童や、その結果の発達障害などのハンディを負った子どもたちを、それを乗り越えて自立の力をつけさせることは、容易ならざることであることは誰もが理解できることと思います。

「狭き門より入れ」

これが、藤本幸邦初代園長が遺した、愛育園よ永遠たれの願いです。職員の努力により愛育園はその狭い門から一步を踏み出したと思っています。その理由となる具体的な実践を記念誌に書きました。愛育園の子育てはこれからです。皆さまにおかれましては愛育園を温かく見守って下さいますようお願い申し上げます。

高校受験

園長 青谷幸治

今年は 4 名の中学 3 年生が在籍しています。高校進学に向けて毎日受験勉強に取り組んでいます。学力が低い子、不登校だった子、集中力が欠けている子など正直言えば受験勉強には程遠い中学生

<http://enpukuji-aiikuen.com/> ホームページでもご覧ください。

ばかりです。愛育園に来ていなければ絶対に勉強しない子どもたちです。さまざまな事情で愛育園に来て、生活もまともに送ることができないので勉強とは無縁の生活でした。しかし、愛育園で規則正しい生活を送り、夢や目標をもち何でも取り組める環境になってきました。家での生活から愛育園での生活に変わったことで、高校を受験するという気持ちになれたことが、子どもたちにとって大きな一歩であり、成長です。そこまでに気持ちを高め、決意するまでの先生方の関りや苦勞がよくわかります。

受験まであと5か月。「高校に行きたい。」ただ口にはしているだけではなく、本気で勉強をしなければいけない時期になりました。今まで見てきた子どもたちは、あきらめや開き直り、先生から「勉強しなさい」と言われても何とかなるだろうと安気になっている子がほとんどでした。しかし最近の愛育園の中学生は違います。確かに模試の点数が低く、どこの高校にも現時点では難しい子もいます。しかし、毎日けな気に一生懸命、学習に取り組む姿勢は素晴らしいものがあります。今になって、「もっと早く勉強しとけば良かった」「毎日、学校に行くとけば良かった」「早く愛育園に来てれば良かった」など口にはしています。高校に行くために真剣に自分と向き合い、何とかしたいという気持ちが伝わってきます。先生方も二度と後悔しないように毎日、学習計画を立て確認しながら、学習の進捗状況を見ながら一緒に取り組んでいます。そんな受験生の共通点は、高校進学を強く望むようになってくると素直になっていくということです。素直に自分の気持ちや不安を話したり、高校に合格するためにいろんなアドバイスを受け入れたり自分の身になることはなんでも吸収していこうという気持ちも伝わります。この子たちは、今は点数が足りないけれども必ず高校には合格できるなど思えるぐらいの姿勢が見えます。

そんな頑張っている中学3年生のために先生方もできることを精一杯協力する姿があります。お互いの思いの深さと精一杯の行動が高校合格を引き寄せると信じています。さらに一歩前進し、「不合格になってしまったらどうしよう」という気持ちを捨てて、今までの人生を覆すような努力と取り組みで高校受験を勝ち取ってほしいと思います。必ず合格できる。がんばれ受験生！！



戸隠キャンプ

主任保育士 石崎早織

8月に予定していたキャンプでしたが、台風の影響もあり、延期になっていましたが、無事先日行うことができました。久しぶりの大きな行事なので、子供たちも準備から一生懸命やってくれキャンプ当日をととても楽しみにしていました。キャンプ場についてすぐに、トラックから荷物

(平成30年10月10日発行 月刊「円福」507号付録 昭和52年5月25日第三種郵便物認可)

をおろし、テントをすべて自分たちで建てるところからキャンプがスタートしました。私が今回のキャンプで一番心に残ったことは、子供たちから誕生日のサプライズをしてもらったことです。去年もちょうど誕生日と行事が重なり、盛大にお祝いをしていただきましたが、また今年もみんなからお祝いをしてもらえるなんて思ってもなかったので、びっくりしました。

HAPPY BIRTHDAY と書かれた大きな板がライトアップされ、手作りケーキまで準備してくれました。みんな忙しい中準備をしてくれたことを思うと、みんなの思いやりの心を感じ本当にうれしかったです。たくさんのおめでとう！の言葉をもらうことができ、また子供たちからたくさんパワーをもらいました！！パワーをたくさんもらった分、次は愛育園祭が成功できるように、みんなで力を合わせ、最高の行事にしていきたいと思います。



愛育園キャンプ

主任指導員 富沢正樹

本当は夏休みに行く予定だった愛育園キャンプですが、台風の影響で止む無く延期を決意し1か月半。先日9月23、24日、待ちに待った愛育園キャンプを行いました。二学期に入り学校が始まっている中で準備は大変でしたが、園の子たちは変わらず前向きに準備を進めてくれます。やっぱり子供たちにとって、キャンプというのは大きな行事で、本当に楽しみにしている行事なんだと再確認しました。当日、少し天気が心配されましたが、十分キャンプができる状態で、子供たちは一安心。キャンプ場に着くと、一番にする事が、荷下ろしとテント張りです。私は、2日間のキャンプの中でこの時間が一番好きです。15張りのテントを建て、50人分の寝袋、テーブルやイスから食器類まで荷物すべてトラックから降ろすのは非常に大変な作業です。ですが、子供たちは張り切って準備を終わらせてしまうのです。何もない敷地があつという間に愛育園のキャンプ場に早変わりする瞬間の子供たちを動きが本当に素晴らしいのです。今年は、部活などで遅れて合流する子が多かったのですが、テント設営などは本当に大変だったのですが、中学生のK君やY君が2、3人分の働きをしてくれたり、他の子も一生懸命に取り組んでくれる姿が本当に成長を感じることができる瞬間です。準備が整うと、いよいよ愛育園キャンプがスタートします。

開村式では、新任の先生を中心に劇を披露したり、班別対抗レクではみんな大笑いでレクを楽しんだり、大盛り上がりでした。そのあとは、班ごとに分かれて、夕食作りをしました。私の班は、自分でトッピングできるバイキング式カレーと、お菓子のキットカットを周りに敷き詰めたスペシャルケーキを作りました。普段の食事とは全く違うメニューで楽しみながらご飯作りができました。

<http://enpukuji-aiikuen.com/> ホームページでもご覧ください。

夜はキャンプファイヤーをしましたが、みんな火を囲んで歌を唄ったり、レクをして大盛り上がりしました。楽し過ぎる時間でした。普段、学校や園の生活を頑張っている子たちが思いっきり発散できている様子がとてもうれしかったです。このキャンプを経て、また日々の生活をがんばれる。愛育園のキャンプは、そんな行事にしたいという思いを込めています。来年も子供たちに楽しい思い出となるようなキャンプ行事にしたいです。

戸隠キャンプ

あおぞら保育士 佐々木 弘観

9月23日から1泊2日で戸隠にキャンプに行ってきました。毎年恒例の夏休みに予定していたキャンプが台風のため延期となり、初めての秋キャンプとなりました。

毎年子ども達はキャンプをとっても楽しみにしており、夏休み前から、子ども達はキャンプが待ち遠しくなってワクワクしており、夏休みに入ると中高生の子達为中心となってキャンプの準備を進めていってくれました。ですが、夏休み中のキャンプは台風のため延期になり、みんなとても残念そうでした。ですが、秋にキャンプの日程が決まると子ども達は喜び、再度秋のキャンプに向けて準備を始めました。このキャンプという行事は特に、当日だけではなく何日も前から準備が必要ですが、各々自分にできることのお手伝いをしてくれました。児童、職員合わせて50人近い人数でのキャンプですので準備はとても大変です。班ごとに食器の振り分けをしたり、忘れ物が無いか1つひとつ物品を数えたり、50個の寝袋を干したりと、やる事が盛りだくさんです。ですが、今年は特にそのお手伝いがとても積極的でした。トラックへの積み込みも例年の倍程の速さで終わりました。今までも、本当によくお手伝いしてくれましたが、途中で嫌になったり、飽きてしまった時もありました。今回のキャンプでは子ども達にとって辛い仕事、大変な準備を嫌がらずに楽しんでできた事がとても驚きでした。当日は各班での分かれてのレクリエーションを思い切り楽しみ、班ごとに考えたメニューの食事作りやキャンプファイヤー、肝試しなど、大変な準備をした分とても楽しんだ2日間でした。来年も子ども達の思い出に残るキャンプを作り上げていきたいと思います。

戸隠キャンプ

あおぞら保育士 宮原徹

9月の三連休に、8月から延期になった戸隠にキャンプに行ってきました。天気が心配でしたが、幸い一度も雨が降ることなく二日間楽しく子ども達とキャンプをすることが出来ました。普段はなかなか触れ合うことができない大自然の中で、子ども達はたくさん遊び、笑い、そしてそれぞれの子ども達がとても活躍し輝いた素晴らしいキャンプでした。

前日までのメニュー決めや荷造りや係の用意なども子ども達と一緒に準備し、キャンプ当日をとっても心待ちにしていました。8月にリハーサルキャンプを行ったため、前回のよかった所や反省を

(平成30年10月10日発行 月刊「円福」507号付録 昭和52年5月25日第三種郵便物認可)



生かすことができ、料理作りではより楽しくかつ協力して、またテントの準備や片付けもより手際よくできました。キャンプのメインと言っても過言ではない夜のキャンプファイヤーでは、準備して下さった立派なキャンプファイヤーを前に、子ども達がとてもはしゃぎ心から楽しんでいる姿がとても微笑ましかったです。子ども達とキャンプのテーマソングを楽しく歌い、ダンスやゲームなどをしてみんなで大いに盛り上がりました。特にキャンプファイ

ヤーでは、普段見ることのできない子ども達のまた違った一面を見ることができたように感じました。キャンプ全体を通じて、笑顔に満ち溢れたとても充実した二日間で、子どもたちの楽しい思い出の一つとなったのではと思いました。愛育園の行事の中でも子ども達の楽しい思い出を増やすことができるよう引き続き支援していきます。

「戸隠キャンプ」

あおぞら保育士 山田忍

9月23、24日にかけて愛育園キャンプがありました。

本来、8月に行う予定でしたが、台風により9月に延期になってしまいました、しかし、8月にリハーサルキャンプ、9月に本番ということで結果的には二回楽しむ事が出来ました。キャンプに向けた準備も中高生達を中心になって取り組んでくれてとても順調に進んで行ったと思います。そして、キャンプ本番の当日も中高生達が力をいかに発揮してくれて、大変盛り上がる事ができました。私としても初めての愛育園キャンプであり、準備やキャンプでの活動の中で子ども達と密に関わる機会も多く、子ども達と職員が一丸となり園全体で成し遂げる事が出来た行事であったなど実感しました、この団結力を次の行事にも活かしていければな、とおもいます。

戸隠キャンプ

まごころホーム 有賀真知

9月23、24日に待ちに待った戸隠キャンプ行事が行われました。私自身小学生以来のキャンプだったため、愛育園の子どもたちとのキャンプはどんな2日間になるのか、ワクワクしていました。

当日、部活動で遅れてくる中高生が多かったのですが、キャンプ場に着くと子どもたちはトラックから荷物を運んだり、15個のテントを張ったりととても手際よく作業をしてくれました。私は小学生と荷物運びをしていたのですが、みんな作業を頼まれると飛びつくように協力していました。

<http://enpukuji-aiikuen.com/> ホームページでもご覧ください。

また、中高生が手慣れた様子でどんどんテントを張っており驚きました。

1日目は開村式に始まり、班対抗レク、食事作り、キャンプファイヤー、肝試しがありました。2班は子どもの半数が部活動だったため、食事作りの途中まで子どもは4人だけという状況でしたが、子どもたちが一人ひとり積極的に動いてくれたおかげで、スムーズにたくさんの美味しいご飯を作ることができました。特に、巷で話題のチーズドックという食べ物をキャンプで食べられたことがとても印象的です。子どもたちにも大好評で、楽しそうにチーズを長く伸ばして食べていました。キャンプファイヤーでは、火の周りを囲んでフォークダンスをしたり歌を歌ったりと子どもも職員も大盛り上がりでした。

愛育園の職員になってから全員が一体となって盛り上がっている姿を見るのは初めてだったので、子どもたちのほっぺたに笑顔がたくさん見られて、とても素敵な時間でした。

今回の行事は中高生に負けなくらい小学生も活躍していました。全員の積極的な取り組みがあったからこそ、キャンプは大成功に終わったと思います。



戸隠キャンプ 児童感想

戸隠キャンプ本番

あおぞらホーム N.R

9月23日、24日にキャンプに行きました。行く前の日に食材やおやつを買いました。夕食づくりでは、じゃがもち、タコライス、パフェ、アボカドサラダを作って食べました。その後、キャンプダイナーときもだめしをやりました。今年はこわくありませんでした。次の日の朝ご飯は、にこみうどん、手作り塩むすび、パフェ、ホットケーキサンドを作って食べました。その後はかたづけ、テントもかいたいてトラックにもつをつんで帰りました。帰るときバスの中でねてしまいました。楽しい2日間になってよかったです。

愛育園キャンプ

あおぞらホーム A.H

9月23日、24日に愛育園キャンプがありました。僕は部活で途中からの参加でしたが、その時にはもう夕食の準備をしていてさっそく準備にとりかかりました。僕は交替しながらビーフシチューをかき回す作業をしました。想像以上に腕の筋肉を使い大変でした。そして夕食が終わった後は、キャンプファイヤーをやりました。僕はキャンプファイヤー係なので一番最初に「キャンプだホイ」

(平成30年10月10日発行 月刊「円福」507号付録 昭和52年5月25日第三種郵便物認可)

を歌ったりして、楽しい時間はあっという間に終わってしまいました。夜は中学生と高校生で火を囲んで語り場をしました。すごく楽しいキャンプでとても良かったです。

戸隠キャンプ 児童感想

今年も愛育園のみんなで戸隠イースターキャンプ場にてキャンプを行いました。今回のキャンプで思い出に残っていることがいくつもあります。

一つ目は、食事作りです。男の子は火おこし、女の子は食材の準備をしました。私は、ホットケーキミックスを使ったバームクーヘン風のデザートを作ったり、生クリームを泡立てたりしました。班のみんなと協力して作る事ができて楽しかったです。また、話したことがなかった先生方とも話せて嬉しかったです。

二つ目は夜の時間です。今年は卒園生ということでキャンプファイヤーの火を点火しました。憧れていたのうれしかったです。園長先生と手をつないで、「栄光の架け橋」を歌いました。園長先生がポロッと「今年で最後か」と言われ寂しくなりました。

今回のキャンプで計画していたことがありました。それは石崎先生の誕生日会です。A君が作ったHappy Birthdayの文字と私の作ったケーキでお祝いしました。石崎先生は、とても喜んでくれました。本当に良かったです。

今年のキャンプは、私の中で目標ができた分しっかり働いて楽しむことができました。これからの残りの生活も目標をもち、思いやりを忘れず楽しく生活したいです。(高3、S・Y)

今年は台風の影響で9月23日24日にキャンプに行きました。

一日目 バスに乗りキャンプ場に向かいました。バスの中ではレクをし、歌を歌いました。キャンプ場に到着するとテントを立てました。初めて立てたので大変でしたが、一つのテントができるたびに嬉しくなりました。次は、班対抗レクをやりました。オセロゲーム、ネームガンマン、ジュースチャージャーゲーム、ピンポン玉リレーをしました。そして夕食作りをしました。じゃがもち、チーズドック、パフェ、サラダ、タコライス、ビーフシチューを作りました。美味しかったです。そして肝試しやキャンプファイヤーをしました。キャンプファイヤーでは係りだったので大きな声を出して盛り上げました。楽しかったです。二日目 山の寒さに起こされ朝食作りをしました。卵料理では半



熟オムレツを作りました。とても美味しかったです。楽しい二日間でした。来年も楽しみです。

(中 1、A・M)

今日は、キャンプに行きました。開村式はとても面白かったです。次は班対抗レクをやりました。楽しかったです。その後、楽しみにしていた夕食作りをしました。大きい鶏肉、鍋、ラーメン、おしるこを作りをしました。おいしかったので沢山おかわりしました。そして、キャンプファイヤー、肝試しをやりました。肝試しは怖かったです。とても楽しい二日間でした。

(小 4、T・Y)



9月23日、24日に戸隠キャンプへみんなで行きました。私が楽しみにしていたこと、嬉しかったことが三つあります。一つ目は、班対抗レクのネームガンマンです。一班が優勝できたことです。ひっくり返しゲームでは三位でしたが、ネームガンマンでは優勝することができて良かったです。二つ目は夕食作りです。お米をとぎやミルフィーユ鍋、デザートを担当しました。お米とぎは去年もやったので一人でとげました。ミルフィーユ鍋はSさんと一緒にやりました。

私は白菜の間にお肉をはさんでいきました。少し白菜が固くお肉をはさめない所があったけど上手にでてよかったです。デザートは、バームクーヘンを作りました。バームクーヘンを作ると決まった時から楽しみにしていました。ホットケーキミックスで生地を作りました。そしてフライパンで作りました。その後トッピングの生クリームを作りました。生クリームができるか心配だったけど美味しくできて良かったです。三つ目は、二日目の朝食作りで卵焼きが作れるようになったことです。Sさんの作っている所を見ながら作りました。最初は全然上手に作れなかったけど、二回目はAさんが横でアドバイスしてくれて上手に作れるようになりました。今回のキャンプで、一人でできるようになったことが沢山あったのでとても嬉しかったです。来年のキャンプが楽しみです。(小 6 S・Y)

敬老の日の会

まごころホーム 保育士 加藤ゆかり

9月17日(月)は敬老の日でした。西横田地区では、西横田公民館で敬老の日が行われました。愛育園の小学生は今年も敬老の日の会に参加させて頂くことになり、この日の為に、プレゼントの用意と、歌の練習をしてきました。今年のプレゼントは、フェルトのコースターにしました。ハート型にフェルトを編み込む作業が意外と難しく、特に低学年は苦戦していました。しかし、子ども達は、西横田のおじいさん・おばあさんに喜んで頂けるように、丁寧に作業を進めてくれました。ラ



ッピングまで小学生がやってくれて、とても素敵なプレゼントが仕上がりました。歌は、「♪もみじ」と「♪ふるさと」を歌いました。2曲とも小学校で歌ったことのある曲で、みんな張り切って歌ってくれました。当日、発表し終わった後、おじいさん・おばあさんが「上手だったよ」「綺麗な歌声だったよ」と声を掛けて下さり、子ども達もとても嬉しそうな笑みを浮かべていました。人の為にプレゼントを用意する、贈る、ということ張り切ってやってくれた小学生。このような機会でも、素敵な姿を見受けられてとてもよかったな、と思いました。

意する、贈る、ということ張り切ってやってくれた小学生。このような機会でも、素敵な姿を見受けられてとてもよかったな、と思いました。

昼食会

あおぞらホーム 石龍 成己

9月16日(日)、連休の中日を利用して、あおぞらホーム、まごころホーム合同で昼食会を開きました。うどん、おでんをそれぞれのホームで用意し、お土産で頂いた仙台の牛タンと共に晴天の下おいしく頂きました。外で全員が食事できるスペースを日曜日の朝食後に作りました。大きなテントを張ったり、机やうどんをゆでる窯を用意したりと、力のいる作業が多くありましたが、あおぞらホームの中高生たちが協力して動いてくれました。10時頃から各ホーム調理の作業に入りました。今回は窯の火も、キャンプを意識して、ライターを使わずして起こすと決めており、そこは高校生のA君が中心となって起こしてくれ、見事に窯のお湯を沸かすことができました。小学生たちは、自分好みのうどんを捏ねるのにとっても必死になっていました。また、食事近くなつての皿や箸を並べる作業は、とても率先して動いてくれていました。そうこう外で作業しているうちに、食堂のほうからはおでんのおいしそうなおいが漂ってきていました。まごころホームさんが協力しておい



<http://enpukuji-aiikuen.com/> ホームページでもご覧ください。

しいおでんを作ってくれていました。味の方はみんなで作っただけあって、格別なものでした。うどんのタレも、組み合わせて作り、オリジナルな食事を楽しむことができました。また、初めての仙台の牛タンもおいしかったとのこと。片付けも、手を抜くことなく、暇になったら仕事を探す様子もあり、キャンプ前にチーム一丸となれたひとときでした。

あおぞらホームだより

あおぞらホーム 倉島 誠

長い二学期が始まり、最近では雨の日が多く感じます。最近の子ども達の様子は、延期となっていた戸隠キャンプにも無事行くことができ、楽しい思い出がまた一つ増えたのかなと感じます。また、中学校では文化祭がありました。私も見に行きましたが、日々の学習の成果や音楽会など、普段見ることの出来ない、子ども達の学校での生活や頑張っている姿などを見ることができ、とても嬉しく感じました。

また、中学校生活最後の文化祭となる四人の愛育園の子達の発表も、とても堂々としたもので、すごく感動させられました。今は、小学生も音楽会に向け、慣れない楽器で毎日練習をしています。子ども達一人一人が何かに向け、努力していることは良いことではありますが、その中で、日々の生活や日課が疎かになってしまわないよう、子ども達には、「メリハリのある行動」「頑張ることまでの過程も重要であること」を話しています。一方で、今年卒園となるA君の就職試験も始まっています。これまで最年長のお兄さんとして支え、引っ張ってきてくれたA君を、今度はホーム全体で応援していきたいと思います。

来月には、第21回愛育園祭も予定されています。部活に取り組む子、高校受験を控えている子、就職を目指す子、それぞれの子が、頑張らなければいけないものがある中で、愛育園祭に向け、子ども達と職員が一致団結し、同じ方向を向いて、協力していきたいと思います。

まごころホームだより

まごころホーム 井上はな

楽しい夏休みも終わり、2学期が始まりました。残暑が厳しい中、水筒にお茶と氷を入れ、子供たちは元気に登校していきます。帰園すると学校での出来事や友達と遊んだこと、宿題のことなど話してくれます。野球チームに入っている子供は宿題をパッと終わらせ、慌ただしく練習に出かけていきます。受験生は、受験まであと数か月～半年となりました。学習量が増えている中、毎日一生懸命勉強しています。日課をきちんと守り、勉強や部活、習い事に励む子供たちを見ると、本当にすごいなと感じます。

9月下旬には、戸隠キャンプがありました。数日前から食材の買い出しや荷物の準備を行い、万全でキャンプに臨みました。天候にも恵まれ、食事作りやキャンプファイヤーなど大いに盛り上が

(平成30年10月10日発行 月刊「円福」507号付録 昭和52年5月25日第三種郵便物認可)

りました。一人一人が精一杯自分の役割を果たしたからこそ楽しいキャンプになったのだと思います。

10月に入ると寒い日も多くなってくると思いますが、体調に気を付けて、元気に生活を送ってほしいです。

調理室だより

調理主任 伊藤 慈子

先日、職員会の日の給食会議の時間を使って、その日勤務の調理員全員で、理事長先生より以前からお聞きしていたご近所の『おやき名人』である方に、愛育園の厨房までご足労頂き、丸茄子のおやきの作り方を教わりました。昔から西横田地区では、土地柄米作りより小麦づくりが盛んだったことからおやきが主食で、よく食べられていたと教えていただきました。そのおやきは、蒸かすだけのものや、焼いてから蒸かすものとは違い、油をひいた『ほうろく鍋』という平たい鉄鍋でじっくり焼く『おやき』という名の通りの調理法で作るものでした。普段お使いのほうろく鍋もご持参いただき、園でも似たような平たい鉄鍋があり、2台をフル回転で使用し、全職員分とちょうど振替休みで居た小学生分で40人分、一人2個とお替り分で100個近く作る必要がありました。

作り方はまず、おやきを包む2時間以上前に中力粉と水をかいて寝かせて置き、丸茄子は皮をむき挟めるよう切り込みを入れ輪切りにしておく。味噌は、砂糖と油を足しよく練っておく。鍋2つは火にかけて熱して油をひいておく。鍋それぞれに並べられるだけの茄子に甘味噌を挟み(味噌の塩分で水分が出て扱いづらくなるのを防ぐ)、手を濡らしピンポン玉大の生地を取り、手のひらで延ばし茄子を包む。味噌を入れた切り口より包み始め、テンポよく包んでいくのがポイントとのことですが、名人の方のように薄く均一に包むことはなかなかうまくいかず、みんなで悪戦苦闘しながら包みました。甘味噌がはみ出したり、破けないようにと生地が厚くなってしまい、生地が足りなくなり作り足しましたが、寝かしていないのでとても包みづらく、名人の方にお任せしてしまいました。みんなで包んだものを、火加減を見ながら、ひっくり返しい焼き色がついたら出来上がりです。まず先に、小学生に先に食べてもらいました。みんな「おいしい」と喜び、お替りに来ていました。その後、職員みんなで食べました。とても香ばしく甘味噌と茄子がとても合い、理事長先生が絶賛されるのがよく分かりました。この日食べられなかった子にも、

また近々おやつに作り出したいと思います。また、丸茄子は発泡スチロールに入れ保存すると鮮度も保ち、長持ちすることも教えていただき、そのまま実践しています。

この度は、いろいろ優しく、丁寧に教えて頂き、本当に貴重な経験をさせていただきました。これから子供達に、たくさん作って喜んでもらいたいと思います。